

オンデマンド出版の長所・短所、徹底チェック

2016年6月16日 編集スキルアップ勉強会 山崎レジメ

●オンデマンド出版の現状

☆アマゾンのPOD（プリント・オンデマンド）出版

☆印刷業者のオンデマンド出版システム

○デジタルオンデマンド出版センター (<https://www.dodpcenter.com/index.html>)

参入業者 (株) 研文社 (<http://www.kenbunsya.jp/>)

欧文印刷 (株) (<http://obun.jp/>)

(株) 光和コンピューター (<http://www.kowa-com.co.jp/>)

○ぶっくりっく (<https://www.bookclick.jp/>)

運営業者 (株) オルツ、松澤印刷 (株)

●アマゾンのPOD（プリント・オンデマンド）出版

○特徴

アマゾンサイトで販売。

1冊の注文でも即日印刷・製本し、2日後に配達される（送料無料）

○長所

品切れ本などを、出版社のリスクなしに読者に提供できる。

○短所

取次-書店ルートでの販売ができない。

出版社の利益率は少ない。

「非再販商品」となり、アマゾンが値引き販売などできてしまう。（原本と別のISBNコードを新規につける）

本の余白、背表紙などのレイアウトに一定の制限がある。

●印刷業者のオンデマンド出版システム

○特徴

10～300部程度のペーパーバックが安価に印刷できる。

○長所

取次-書店ルートで販売できる。非常に小刻みな増刷が可能となる。

再版で多くの部数が期待できないが、品切れさせたくないケースに非常に有効。

○短所

80ページ位以下では、原価率が高い（別表参照）。

カバーや帯を新規に作ると採算が合わない。(カバーの予備が残っている場合に有効)
見返しができない。(ぶっくりっくは、色上質紙で可?)
上製本ができない。
用紙の選択肢が少ない。

●オンデマンド出版と通常オフセット印刷の価格比較 (グラフは次ページ)

同条件 (A5判、本文=書籍用紙、墨1色、見返しなし) での比較

ページ (税込定価)	DOD 出版センター			ぶっくりっく			通常のオフセット印刷		
	50部	100部	300部	50部	100部	300部	50部	100部	300部
64ページ (600円)	23,760 (@475)	42,120 (@421)	115,560 (@385)	26,002 (@520)	43,252 (@433)	106,020 (@354)	74,000 (@1480)	87,000 (@870)	137,000 (@457)
96ページ (1000円)	28,080 (@562)	50,760 (@508)	141,480 (@472)	31,182 (@623)	53,092 (@531)	131,641 (@439)	93,000 (@1860)	107,000 (@1070)	160,000 (@533)
192ページ (2000円)	41,040 (@821)	76,680 (@767)	219,240 (@731)	44,566 (@891)	74,601 (@746)	210,956 (@703)	152,000 (@3040)	167,000 (@1670)	228,000 (@760)



は価格の安い方を示す

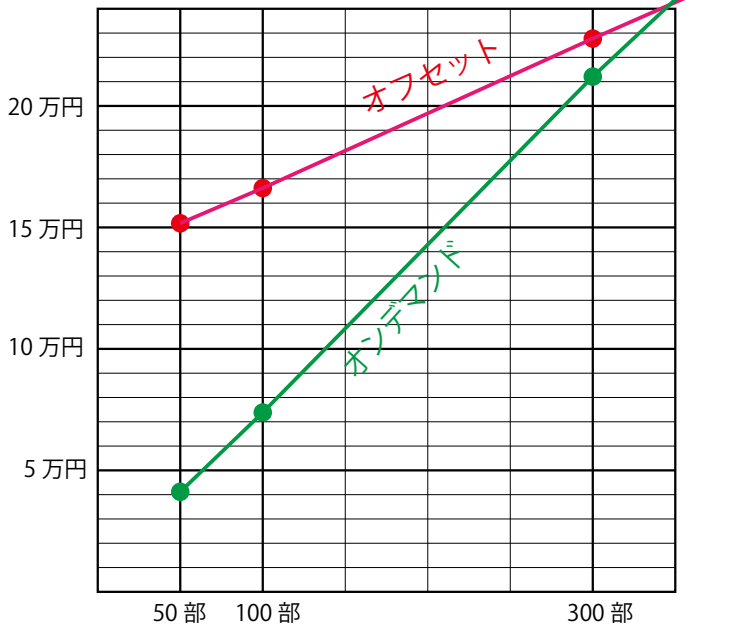
※グラフからわかる特徴

- ①300部程度を境に、少部数になるほどオンデマンドが安い。
- ②100頁程度以下では、オンデマンドでも採算が合わない。

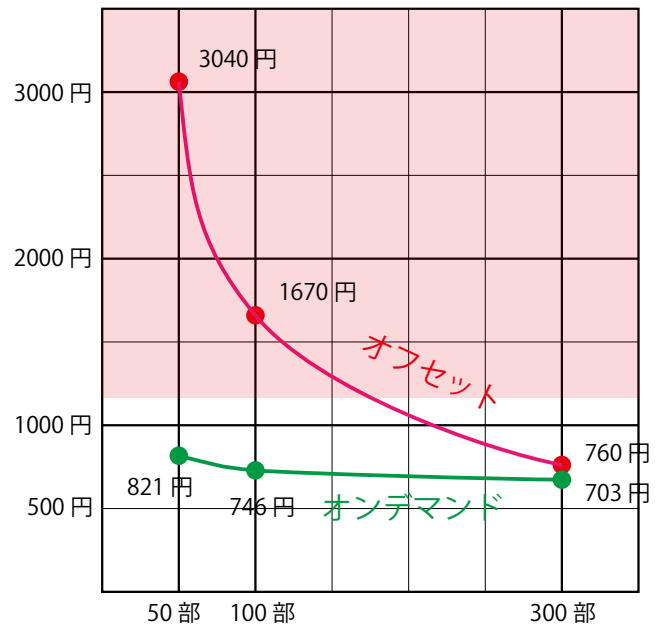
●せせらぎ出版の当面の対応方針

- ①品切れ商品に積極的に活用する。
- ②自費出版の受注促進にも活用 (低価格で少部数出版ができることをアピール)
- ③初版出版時に、カバー・帯の予備数を多くしておく。
- ④装幀家と、オンデマンド出版の共通認識を得ておく。
- ⑤増刷時にオンデマンド出版方式を採用する可能性が高いことを考慮して、初版作成企画をたてる。
- ⑥「見返しなし」「カバーなし」のペーパーバックを積極的に採用する方向。

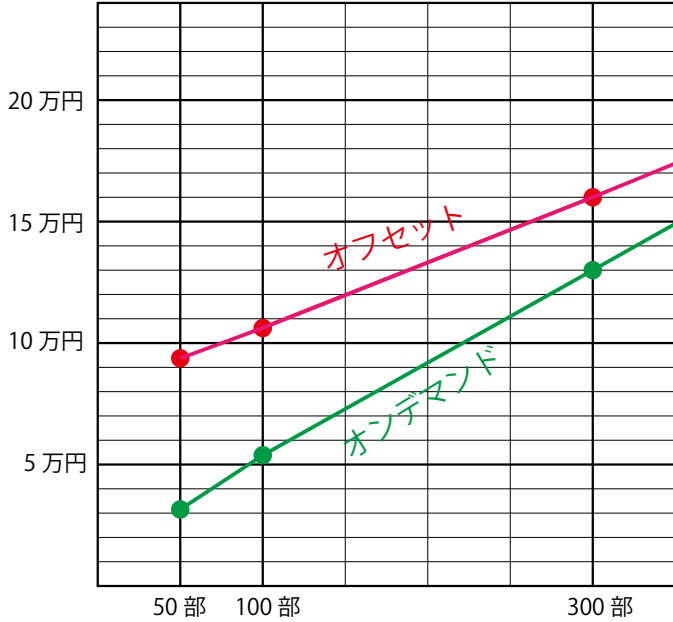
192p の印刷代



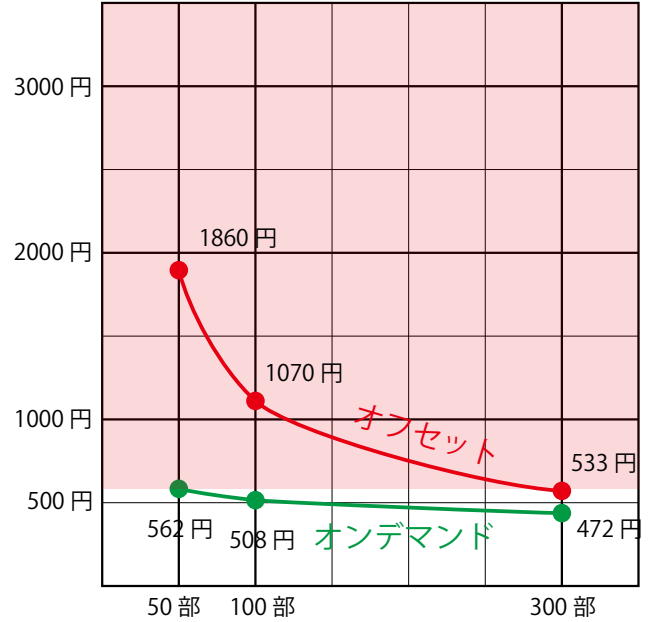
192p の 1 冊単価 (定価約 2000 円)



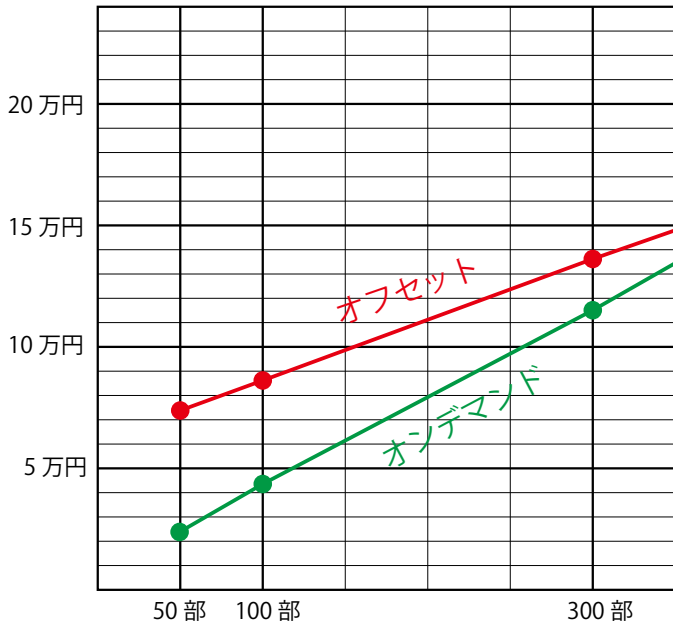
96p の印刷代



96p の 1 冊単価 (定価約 1000 円)



64p の印刷代



64p の 1 冊単価 (定価約 600 円)

